(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 23年 12月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・2か月に1回の広報誌発行(近隣宅へ配布・また、行事の案内等も)
 ・ほぼ毎月のユニット全員で外出&外食、外出できない時は仕出し屋さんの食事を楽しんでいる。
 ・個々のアルバム作成。
 ・歌謡ショーや踊りの慰問がある。
 ・近隣中学校の「小松タイム」や職場体験、高校生の職場体験、ヘルパー実習受け入れをしている。
 ・ホームは、山際に建ち環境良く、春には小鳥たちのさえずり等で季節を感じられる。
 ・勤務時間帯で研修に行かせてもらっている。
 ・食事前には、必ず手洗い口腔体操をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地が広く、玄関も自由に出入りができ、居間、居室も掃除が行き届いており落ち着いて暮らせるよう配慮がされている。「あたたかく、さりげなく、気くばり、目くばり」を事業所の心がけとして職員は日々、利用者の生活を支えている。地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りにたくさんの近所の方に着てもらう等、地域との交流も盛んである。年間行事の他に各ユニットごとの行事を計画し、利用者が楽しめるよう工夫をしている。研修への参加については事業所が経費を負担しており、職員も積極的に研修に参加し資格取得も目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)

氏名 野村 友紀江(平塚真由美)

評価完了日 平成23年 12 月 23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 小松の里の独自の理念があり、毎朝夕会の時に「小松の里の心がけ」としてスタッフ全員が共有出来るようにあたたかく、さりげなく、気づき、目くばり」と復唱している。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念を掲げており、事業所の心がけとして具体的な言葉で表している。新任の職員にも必ず説明を行い、日々の申し送り時に唱和している。管理者や職員間で共有して利用者の暮らしを支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的にはとはいかないが、地域の方と会った際は挨拶したり、中学校の文化祭や運動会、地域の敬老会に参加して交流を図っている。また、ホームの行事では案内状を配って参加していただける様にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議等で地域の情報を得ており、小学校の運動会や敬老会に参加したり、地方祭の時にはだんじりが来てくれている。事業所の夏祭りには多くの地域の方の参加があり、中学生の訪問や多数のボランティアの訪問もある。また近所の高齢の方がボランティアで菜園の手入れをしてくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設周辺（近距離）ではあるが、散歩も兼ねてゴミ拾いを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、管理者・スタッフ（主任・副主任）・利用者・家族・自治会長・介護相談員等参加され、報告や意見を話し合いサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、地域包括支援センターの職員、介護相談員、自治会長、民生委員、中学校教諭の参加を得て開催している。事業所の状況報告や避難訓練を見学してもらったり、意見交換も行われているが参加者が固定されている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 月に1回2名の介護相談員の訪問があり、利用者との関わりを持っていただく事で、協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席してもらっている。また毎月1回、介護相談員2名を受け入れ、運営推進会議にも出席してもらっている。また、年3回サービス向上委員会に参加しており、資料は職員に回覧して情報を共有している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中は玄関の施錠はしておらず、見守りにて安全確保し、自由な行動が出来る身体拘束をしないケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルは整備されており、玄関はセンサーを取り付け職員の見守りや声かけで対応し、時には後ろからついて行く等、利用者に合わせて支援を行っている。身体拘束についての研修会に参加した職員は、学んできたことを事業所内の勉強会で他の職員に伝える等、学習の機会を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会で学ぶ機会があり、職員全員が理解し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員全員が理解しているとはいかないが、研修で学ぶ機会を持ち活用できるようにしたいと思っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が説明を行い、十分な理解・納得を図っていると思う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ユニット会や面会時に意見や要望を聞いている。また、ロビーに意見箱も設置している。(意見箱設置しているが入れて下さる方が最近 いないのが現状) (外部評価) 利用者には日頃の生活の中で思いや意向を聞いている。また、家族には面会の時や電話連絡をした際に要望や意見を聞くよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会や管理者との面談があり、意見や提案を述べ反映させている。 (外部評価) 昨年の8月に管理者が交代しているが、開設当初から勤務している職員が新しい管理者になっており、職員も気軽に意見が言える関係ができています。管理者との個人面談もあり意見の言える機会が設けられている。研修会に参加するための経費は事業所が負担しており、資格取得もしやすいようバックアップしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 1年の目標を立て目標シートを作成し、管理者との面談を行い向上心を持って働けるようにしている。また、毎月希望勤務も聞きいれてくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 自分が学びたい研修に行ったり、個々にあった研修に参加したりしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相合研修に参加して他施設と交流したり、同グループ内でレクバレー大会や勉強会があり、サービスの質を向上させている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で話を聞き、出来る限り本人の要望等聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時やサービス担当者会議時に不安な事や要望等があれば傾聴し、信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族等が必要としている支援をケアプランとして実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 施設ではあるが一緒に生活している家族の思いで接し尊重している時もあるが、時として、口げんかのようにになってしまうときもある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様との対応に困ったり悩んだ時は、家族様から情報を得たり相談し、お互いに支えあって支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出行事に、昔馴染みがあった場所へ出掛けたり、知人・友人の面会時には、快い挨拶を心がけ帰宅時には「また来て下さいね」と利用者様と一緒に見送りしている。 (外部評価) 以前には利用者の住んでいた地域等にドライブに行った事もあるが、長く入居している利用者は、自分の住んでいた地域より事業所での関わりが馴染みとなっている。近くから入居している利用者には知人の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が一人にならない様に、気の合った同士一緒に座ってもらえる配慮や誘導して話が出来る様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後は、あまり関係持っていないのが現状。入院し退居となった方のお見舞い等は個々に行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所時に家族より意向・希望等を聞き把握に努めている。また、入浴時の1対1の時に聞いたりしている。出来ない方は、その人の表情等で理解する様に心掛けているが職員のペースになっている時も多い。 (外部評価) 日頃の会話の中で利用者から直接聞いたり、家族の訪問時に要望等を聞くようにしている。利用者の表情やしぐさ等からも把握するようにしている。新任の職員は先輩の職員に教えてもらいながら記録で確認するよう努めている。	利用者一人ひとり入居時の状況とは違ってきており、職員は日々の生活の中で多くの情報を得る事が多いため、申し送り等で伝えるようにしているが、得た情報を確実に共有するための仕組みや記録方法等について工夫するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にこれまでの生活歴やサービスの情報を本人様・家族様より得たり日常の会話の中からも収集し記録しているが十分なセンター方式活用とまで行っていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々一緒に生活する中で、一人ひとりの日中・夜間の様子を記録し、スタッフ間で共有している。また、気づきノート・オンリーワンメモ等もあり現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月1回、家族様参加でサービス担当者会議を行い、家族の意見やアイデアを聞きそれを参考にして職員間で話し合い利用者にあった介護計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画については、利用者や家族、職員の意見を取り入れながら計画作成担当者が作成している。各ユニット会で話し合いを行い、3か月に1回見直ししている。利用者の状態に変化があればその都度状態に合わせた新たな介護計画を作成している。	利用料が振込みになり家族の訪問が遠のいている事もあり、計画については報告をすることの方が多くなっているため、計画についての話し合いには、できるだけ家族が参加できるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活記録へ記入したり、気づきノートやオンラインワンメモに記入し状態を把握して、ユニット会やサービス担当者会議で介護計画を見直す時に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 1人ひとりを支える為のニーズを考え、その時にあった支援やサービスが出来る様に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生のボランティア清掃や慰問、月に1回の介護相談員来荘、消防署の指導による消防避難訓練等の地域資源と協働しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前からのかかりつけ医に継続し医療を受けれる様 支援している。また、関連グループの病院との連携体 制の構築が出来ている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診がで きるよう支援したり、年1回健康診断を受ける等、健康管 理が十分に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員がおり、日常の状態の変化や気づきを報告、 相談し個々に適切な受診や看護が出来るように支援し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院後は、面会に行ったり病院職員と情報交換を行い 関係づくりをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期ケアは実施していないが、本人様・家族様、主 治医・管理者とで十分な話し合いをし方針を決めてい る。ホームで出来る限り過ごしていただける様に努め ている。	
			(外部評価) 看取りを行わない方針としており、入居時に利用者や 家族に説明している。緊急時にはかかりつけ医や協力 医療機関と連携を取りながら適切に対応している。利 用者が重度化した場合や終末期には、その都度かかり つけ医や家族と話し合いを行い、利用者の状態に応じ て病院や施設を利用するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2年に1回、全職員が消防署の一般救命講習に参加し応急手当やAEDの使用方法を勉強し実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回火災避難訓練を行っている。2回のうち1回は、運営推進会の皆様にも参加呼び掛けしている。地域の協力体制は整っていないのが現状。 (外部評価) 年2回、避難訓練を夜間を想定する等しながら、実施している。避難訓練実施日に運営推進会議を行い、参加者にそれぞれユニットごとに分かれて見学してもらっている。備蓄については3日分確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声のトーンや声掛けには注意しているが何度言ってもってもらえなかったり暴力行為や酷い言葉が返って来た時は言葉掛けが強くなってしまう時がある。 (外部評価) 利用者一人ひとりのプライバシーや人格を尊重し、特に入浴時やトイレ誘導時の声かけ等に配慮している。職員の利用者に対する声かけは穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 注意深く反応や表情をみて自己決定できる働きかけしている。一番多いのは、副食のドレッシングかけや飲み物の好み聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人ひとりの生活ペースを大切にしているが、職員側のペースになりがちなので注意しながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で選べる方は支援している。嫌がる服は避ける様になっている。行事の時には化粧する事もある。2ヶ月に1回近隣の美容院に来てもらったり、男性の方は理容院へ出掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々に合った食事形態で食べやすくしたり、時には利用者様より「…食べたい」と要望がある時等急遽、変更する時もある。職員も同じ物を同じ場所で一緒に摂っている。 (外部評価) ユニットごとに立てられた献立はカロリー計算がされている。食材の買い出しや下ごしらえ、後片付け等できることを無理のないようしてもらっている。職員と共に食事をしながら楽しいひと時を過ごすことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、水分・食事量を記録し状態の変化を見極めながら対応している。食事量の少ない方やむせる利用者様には、その都度対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。毎夕食後には、義歯を消毒液に漬け清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、個々に応じた声掛けや誘導を行っているが抵抗もあり難しいと感じている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して支援している。日中はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は眠剤を服用している人もいるため、一人ひとりの状態に応じて安眠を確保しながらおむつ交換やトイレ誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の食事時のお茶は、センナ茶を飲んでもらっている。個々にあった濃度や量で便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴があり、個々の希望に合わせてゆっくりと入浴が出来る様に支援している。ただ、入浴拒否の方の対応に苦戦する時がある。	
			(外部評価) 午後から入浴することが多いが、希望すれば好きな時に入れるようにしている。入浴の苦手な利用者に対しては、無理強いをしないよう職員が交代して声かけしたり、時間や日を変える等の工夫をして気持ちよく入浴できるよう支援している。清拭や足浴等で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室や和室・ソファで自由に休息を取ってもらっている。就寝時間が来ても無理に促さず、話をしたりお茶を飲んだり眠気がくるまでゆっくりと過ごしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人ひとりの処方箋はファイルにて保管し、すぐに取り出し見える所にある。服薬時は誤薬や飲み忘れがない様に前後3度の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人にあった役割や楽しみごとの把握に努め支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1度はユニット全員で外出を兼ね外食に出かけている。その際は、個々に好きな物を注文している。また、買い物や近隣行事の参加もしている。	
			(外部評価) 年間の行事計画で花見等を企画したり、ユニットごとで買い物やドライブ、外食を実施する等、外出支援に努めている。また、家族と外出する利用者もいる。敷地内は広く、天気の良い日は事業所の周囲を散歩することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方は少ないが、持っている方は外出時やホームにパン屋さんが来た時等は自分で支払いしている。他の方は、ホームで立て替えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望やその都度状況に応じていつでも自由に電話出きる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じれる様な飾り付けや移動しやすい空間作りに気を付けている。24H換気や加湿器も使用し室温にも十分配慮し居心地よく過ごせる様にしている。	
			(外部評価) 明るい居間にはソファが置かれ、畳のスペースにはこたつがあり、利用者の好きな場所で寛ぐことができるようになっている。壁には季節を感じさせる飾り付けがされ、家庭的な雰囲気づくりがされている。温度や湿度が管理されている。台所から全体が見渡せ、常に利用者を見守ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関・ロビー・リビングには、ソファや椅子を設置している。また、中庭・ウッドデッキにはベンチを置き好きな時に、その場所へ行き思い思いに過ごせる様に支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の使い慣れた物や好みの物を持って来て下さる様に入居時にお願いしているがなじみの物を持って来て下さる方が少ない。そんな中でも、仏壇や家族の写真・母の日のプレゼントを飾られている方もいる。	
			(外部評価) 収納スペースが確保されており、部屋全体がすっきりしている。利用者はそれぞれ家庭より使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでおり、写真等を気に入った場所に置いたり壁に飾ったりして落ち着いて過ごせるような居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホームは、バリアフリーになっておりローカも広く手すりや居室入り口には、個々のネーム入り写真等で安全に過ごせる様な工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成 23年 12月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・2か月に1回の広報誌発行(近隣宅へ配布・また、行事の案内等も)
 ・ほぼ毎月のユニット全員で外出&外食、外出できない時は仕出し屋さんの食事を楽しんでいる。
 ・個々のアルバム作成。
 ・歌謡ショーや踊りの慰問がある。
 ・近隣中学校の「小松タイム」や職場体験、高校生の職場体験、ヘルパー実習受け入れをしている。
 ・ホームは、山際に建ち環境良く、春には小鳥たちのさえずり等で季節を感じられる。
 ・勤務時間帯で研修に行かせてもらっている。
 ・食事前には、必ず手洗い口腔体操をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地が広く、玄関も自由に出入りができ、居間、居室も掃除が行き届いており落ち着いて暮らせるよう配慮がされている。「あたたかく、さりげなく、気くばり、目くばり」を事業所の心がけとして職員は日々、利用者の生活を支えている。地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りにたくさんの近所の方に着てもらう等、地域との交流も盛んである。年間行事の他に各ユニットごとの行事を計画し、利用者が楽しめるよう工夫をしている。研修への参加については事業所が経費を負担しており、職員も積極的に研修に参加し資格取得も目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 西 通 り

記入者(管理者)

氏 名 伊藤 元栄 (平塚 眞由美)

評価完了日 平成 23 年 12 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は事務所の目に留まる所に掲示してある他に、名札の裏にも記載しており、いつでも確認できるようにしている。又、心掛けを朝夕の申し送り時、皆で唱和することにより、共有することができている。	
			(外部評価) 開設当初からの理念を掲げており、事業所の心がけとして具体的な言葉で表している。新任の職員にも必ず説明を行い、日々の申し送り時に唱和している。管理者や職員間で共有して利用者の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の中学校の運動会、文化祭に招かれたり、地方祭の時には、だんじりが数台来荘している。広報誌や行事の案内状を配布し、参加の呼びかけを行い、行事を楽しみにしてくれている近所の方もおり、交流を図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議等で地域の情報を得ており、小学校の運動会や敬老会に参加したり、地方祭の時にはだんじりが来てくれている。事業所の夏祭りには多くの地域の方の参加があり、中学生の訪問や多数のボランティアの訪問もある。また近所の高齢の方がボランティアで菜園の手入れをしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、地域のゴミ拾いを行い、地域奉仕をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 実施状況の報告を行っている。その場の意見は、きちんと受け止め、次につながるような対応をしている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域包括支援センターの職員、介護相談員、自治会長、民生委員、中学校教諭の参加を得て開催している。事業所の状況報告や避難訓練を見学してもらったり、意見交換も行われているが参加者が固定されている。	運営推進会議等で地域の方にお願ひしたり、議題を提示する等して多くの方の参加を得たり、職員が交替して参加する等、活発な意見交換ができる会議となるよう期待したい。出された意見は職員会議等で検討し、サービスの向上に繋がるように会議を活用することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護介護相談員の方、市の担当者が運営推進会議に参加されており、サービスの取組みなど伝えている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席してもらっている。また毎月1回、介護相談員2名を受け入れ、運営推進会議にも出席してもらっている。また、年3回サービス向上委員会に参加しており、資料は職員に回覧して情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会や学習会などで学ぶ機会はある、理解できており、拘束しないケアに勤めている。 玄関は夜間のみ、防犯のため施錠しているが、日中はチャイムで玄関の出入りに気づくようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルは整備されており、玄関はセンサーを取り付け職員の見守りや声かけで対応し、時には後ろからついて行く等、利用者に合わせた支援を行っている。身体拘束についての研修会に参加した職員は、学んできたことを事業所内の勉強会で他の職員に伝える等、学習の機会を設けている。	身体拘束については、全職員で勉強会を継続して行い理解を深め、今後も利用者一人ひとりを大切にしながら日々のケアが行えるよう取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会があり、全体で意識を持ち、虐待のないよう、注意を払ったケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前は成年後見制度を利用している方がいたが、今のところは活用するような方はいない。研修などで制度については理解できている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、納得してもらえている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月サービス担当者会議に参加の呼びかけを行い、またロビーには意見箱を設置しており、いつでも気のついた時に意見、要望を出せるようにしている。	
			(外部評価) 利用者には日頃の生活の中で思いや意向を聞いている。また、家族には面会の時や電話連絡をした際に要望や意見を聞くよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1度のユニット会や各委員会で意見を出し合い、反映につなげるようにしている。 (外部評価) 昨年の8月に管理者が交代しているが、開設当初から勤務している職員が新しい管理者になっており、職員も気軽に意見が言える関係ができています。管理者との個人面談もあり意見の言える機会が設けられている。研修会に参加するための経費は事業所が負担をしており、資格取得もしやすいようバックアップしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己目標の設定や個人面談があり、個々が向上心を持って働けるよう、努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 本人の希望する研修、及び管理者が個々に合った研修を受ける機会を設け、勤務時間内での参加ができるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修等に参加し、交流を通じ自分の職場との違い、良い所、悪い所が把握できることにより、質の向上に努めることができる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 十分にコミュニケーションをとり、利用者の状態の把握に努め、安心して生活できるような関係作りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には家族の方にじっくり話しを聞き、情報を収集するとともに、信頼関係が保てるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に、今の状態や様子を聞くことで支援することを見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活しているということを前提に、できる事はして頂き、できない所を手伝っていくようにしている。又、家族のように思い、接していくうえで人生の先輩であるということを意識して接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人にとって、家族が一番であるということをつまえ、一緒に本人を支えていけるように努力しているが、全く来られない家族の方もおり、難しいところではある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に親しくしていた友人が尋ねてくる方や、月に1度は必ず家の方へ外泊される方もいる。 (外部評価) 以前には利用者の住んでいた地域等にドライブに行った事もあるが、長く入居している利用者は、自分の住んでいた地域より事業所での関わりが馴染みとなってきている。近くから入居している利用者には知人の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う方が他のユニットにいる方もおり、行ったり来たりの交流を図っている。おとなしい方には、職員が間に入り、他者と関われるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 気にはなっているが、なかなか関係性を維持するのは難しい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望や意向を表現できる方は限られており、職員同士で話し合いを持ち、本人本位に検討しているが、本人が望んでいることなのか、判断することは難しい。 (外部評価) 日頃の会話の中で利用者から直接聞いたり、家族の訪問時に要望等を聞くようにしている。利用者の表情やしぐさ等からも把握するようにしている。新任の職員は先輩の職員に教えてもらいながら記録で確認するよう努めている。	利用者一人ひとり入居時の状況とは違ってきており、職員は日々の生活の中で多くの情報を得る事が多いため、申し送り等で伝えるようにしているが、得た情報を確実に共有するための仕組みや記録方法等について工夫するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方や、普段の何気ない会話の中から情報を得ることもある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテ、申し送りノート、気づきノートなどの活用で現状の把握ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1度、ユニット会で話し合いを持ち、必要であれば介護計画の見直し等行っている。 (外部評価) 介護計画については、利用者や家族、職員の意見を取り入れながら計画作成担当者が作成している。各ユニット会で話し合いを行い、3か月に1回見直ししている。利用者の状態に変化があればその都度状態に合わせた新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日記録を行い、目を通すことで状況の把握はできている。オンリーワンメモや気づきノートを活用し、状況の変化を見極め、見直し等に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況の変化に伴い、できる範囲で柔軟な対応をとるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 介護相談員の方やボランティア（歌謡ショー、手のエステなど）の来荘があり、楽しみにしている。毎日、散歩でホームの前を通る方が、玄関前に季節の花を植えてくれ、水やりも行ってくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が病院であり、週に1度の往診がある。また、体 調の悪い時はすぐに受診できる体制にある。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診がで きるよう支援したり、年1回健康診断を受ける等、健康 管理が十分に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 心身の状態の変化があれば、看護師に伝え必要であ れば、受診できる体制にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体が病院であり、入院し安心して治療を受けられ る。病院での様子、情報については、あまり把握でき ていない。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在はターミナルケアは行っていない。重度化した場 合は、病院へ入院となることが多い。 (外部評価) 看取りを行わない方針としており、入居時に利用者や 家族に説明している。緊急時にはかかりつけ医や協力 医療機関と連携を取りながら適切に対応している。利 用者が重度化した場合や終末期には、その都度かかり つけ医や家族と話し合いを行い、利用者の状態に応じ て病院や施設を利用するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2年に1度、消防署の市民救命士の講習を全職員が受講しているが、いざとなるとどのような対応ができるのか、不安はある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、年に2回行っている。そのうち1回は消防署の方に来てもらい、実施している。連絡網やマニュアルを作成しているが、特に夜間となると、不安がある。 (外部評価) 年2回、避難訓練を夜間を想定する等しながら、実施している。避難訓練実施日に運営推進会議を行い、参加者にそれぞれユニットごとに分かれて見学してもらっている。備蓄については3日分確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応に気をつけてはいるが、ついトイレの声掛けなど、大きな声で言うことがある。また、皆でワイワイ言っている時に、慣れ親しんだ利用者の方に対し、少し度が過ぎた言葉かけになることがあり、気をつけたいところではある。 (外部評価) 利用者一人ひとりのプライバシーや人格を尊重し、特に入浴時やトイレ誘導時の声かけ等に配慮している。職員の利用者に対する声かけは穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつ時の飲み物や入浴時の着替えの服など、本人の希望を取り入れ、自己決定できるような対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限り、希望に沿うように支援しているが、時によりペースを無視して対応をしていることがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時や行事のときには、おしゃれをしたりお化粧をしたりする方もいる。また、髪の毛の方はカチューシャをしたり、髭が伸びているときは、入浴時だけでなく、気がついた時に洗面台で剃ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや食器の洗浄など、できることを手伝ってもらっている。食事は、職員と利用者が同じものを同じテーブルで食べるようにしている。また、誕生日には、その方の好きなものでお祝いしている。 (外部評価) ユニットごとに立てられた献立はカロリー計算がされている。食材の買い出しや下ごしらえ、後片付け等できることを無理のないようしてもらっている。職員と共に食事をしながら楽しいひと時を過ごすことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量ともチェック表があり、毎日記録し、どのくらい摂取しているか、わかるようにしている。水分をなかなか摂ってもらえない方には、ゼリーにしたり、とろみを付けたりして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛けや介助しながら、清潔保持に努めている。毎日義歯洗浄剤を使用している。自分でできる方は、ていねいに磨けているかの確認ができていない時もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表があり、パターンを知るうえで、役立っている。時間ごとの誘導や声掛けで失禁が少なくなるように対応している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して支援している。日中はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は眠剤を服用している人もいるため、一人ひとりの状態に応じて安眠を確保しながらおむつ交換やトイレ誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝センナ茶を飲用し、排便を促している。便秘ぎみの方には濃さや量で調整している。そのほか、オリゴ糖を使用している方もいる。また、運動不足にならないよう心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その人その人に応じた対応をしている。基本は午後からの入浴だが、時には朝風呂に入る方もいる。夜、8時まではお湯をためており、寝る前に入りたい方に対応できるようにしている。	
			(外部評価) 午後から入浴することが多いが、希望すれば好きな時に入れるようにしている。入浴の苦手な利用者に対しては、無理強いをしないよう職員が交代して声かけしたり、時間や日を変える等の工夫をして気持ちよく入浴できるよう支援している。清拭や足浴等で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、居眠りしている方には部屋で休んでもらうような対応をとっている。また、夜間目が覚め、眠れない時にはリビングでお茶をすすめたりし、眠気が出るまで見守ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルしており、いつでもすぐに確認できるようになっている。臨時薬や薬の変更時は、申し送りノートやカルテに必ず記載し、皆が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々のレベルに合わせ、食事の下ごしらえ、食器洗浄、裁縫、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、張りのある生活が送れるよう支援するとともに、毎日何かしらのレクリエーションを行っており、楽しんでもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物に行きたい方には、個別に対応している。また、家族の方をお願いして、お墓参りに出かける方もいる。	
			(外部評価) 年間の行事計画で花見等を企画したり、ユニットごとで買い物やドライブ、外食を実施する等、外出支援に努めている。また、家族と外出する利用者もいる。敷地内は広く、天気の良い日は事業所の周囲を散歩することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持している方もいるが、お金の価値はよくわかっておらず、支払い時は見守っている。しまい込んでわからなくなってしまうこともあり、定期的に残金の確認をおこなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自ら電話をかけることができる方はいないが、希望があったり、不穏時に職員が家族の方に、電話をかけ、話をしてもらったりの支援はしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 24時間換気、加湿器を使用している。日に3度の室温チェックをしており、快適な室温を保つようにしている。毎月、手作りカレンダーを作成したり、季節の装飾品を飾り、四季の移り変わりを感じてもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 明るい居間にはソファが置かれ、畳のスペースにはこたつがあり、利用者の好きな場所で寛ぐことができるようになってきている。壁には季節を感じさせる飾り付けがされ、家庭的な雰囲気づくりがされている。温度や湿度が管理されている。台所から全体が見渡せ、常に利用者を見守ることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合った者同士の座席の配慮や、他のユニットの方ともゆっくり関わられる時間が持てている。和室には、冬になるとコタツを置いたり、ソファで横になる方もいる。中庭には、ベンチを設置し、個々が自由にくつろげる場所がある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、家族の写真を飾ったり、使っていたタンスを持ち込んでいる方もいる。また、祭りのポスターを壁に貼り、いつも眺めている方もいる。</p> <p>(外部評価) 収納スペースが確保されており、部屋全体がすっきりしている。利用者はそれぞれ家庭より使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでおり、写真等を気に入った場所に置いたり壁に飾ったりして落ち着いて過ごせるような居室づくりがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、浴室には手すりがついている。トイレには「便所」と貼り紙し、よくわかるようにしている。また、居室入口には、利用者の顔写真付きの表札を作り貼っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890600145
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム 小松の里
所在地	愛媛県西条市小松町妙口甲1番地1
自己評価作成日	平成23年 12月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・2か月に1回の広報誌発行(近隣宅へ配布・また、行事の案内等も)
 ・ほぼ毎月のユニット全員で外出&外食、外出できない時は仕出し屋さんの食事を楽しんでいる。
 ・個々のアルバム作成。
 ・歌謡ショーや踊りの慰問がある。
 ・近隣中学校の「小松タイム」や職場体験、高校生の職場体験、ヘルパー実習受け入れをしている。
 ・ホームは、山際に建ち環境良く、春には小鳥たちのさえずり等で季節を感じられる。
 ・勤務時間帯で研修に行かせてもらっている。
 ・食事前には、必ず手洗い口腔体操をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地が広く、玄関も自由に出入りができ、居間、居室も掃除が行き届いており落ち着いて暮らせるよう配慮がされている。「あたたかく、さりげなく、気くばり、目くばり」を事業所の心がけとして職員は日々、利用者の生活を支えている。地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りにたくさんの近所の方に着てもらう等、地域との交流も盛んである。年間行事の他に各ユニットごとの行事を計画し、利用者が楽しめるよう工夫をしている。研修への参加については事業所が経費を負担しており、職員も積極的に研修に参加し資格取得も目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 小松の里

(ユニット名) 上通り

記入者(管理者)

氏名 愛久澤 剛史(平塚真由美)

評価完了日 平成23年 12月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「温かく、さり気なく、気配り目配り」という事業所独自の理念があり、朝、夕の申し送り時に職員が復唱しており、また名札の裏に理念が詳しく記載され、ホーム内にも目の付く所に掲示されている。	
			(外部評価) 開設当初からの理念を掲げており、事業所の心がけとして具体的な言葉で表している。新任の職員にも必ず説明を行い、日々の申し送り時に唱和している。管理者や職員間で共有して利用者の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 近くの中学校との交流授業や、地域の文化祭、運動会の見学等において交流しているが、日常的、地域の一人としては、まだまだ足りないと感じている。	
			(外部評価) 運営推進会議等で地域の情報を得ており、小学校の運動会や敬老会に参加したり、地方祭の時にはだんじりが来てくれている。事業所の夏祭りには多くの地域の方の参加があり、中学生の訪問や多数のボランティアの訪問もある。また近所の高齢の方がボランティアで菜園の手入れをしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 具体的な取り組みは行っていないが、運営推進会議における地域住民代表にホームの実情を報告している。ただそれ以上の取り組みには至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の開催の場において、ホームの状況、活動報告、意見答申を求め出された意見については、都度サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域包括支援センターの職員、介護相談員、自治会長、民生委員、中学校教諭の参加を得て開催している。事業所の状況報告や避難訓練を見学してもらったり、意見交換も行われているが参加者が固定されている。	運営推進会議等で地域の方をお願いしたり、議題を提示する等して多くの方の参加を得たり、職員が交替して参加する等、活発な意見交換ができる会議となるよう期待したい。出された意見は職員会議等で検討し、サービスの向上に繋がるように会議を活用することを望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の訪問や、運営推進会議に市の担当者が出席され、事業所の取組みを伝え協力関係を仰いでいる。また、広報誌を届けている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席してもらっている。また毎月1回、介護相談員2名を受け入れ、運営推進会議にも出席してもらっている。また、年3回サービス向上委員会に参加しており、資料は職員に回覧して情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は、夜間のみ安全の為施錠している。日常のケアにおいては身体拘束に繋がる行為は行っていない。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルは整備されており、玄関はセンサーを取り付け職員の見守りや声かけで対応し、時には後ろからついて行く等、利用者に合わせた支援を行っている。身体拘束についての研修会に参加した職員は、学んできたことを事業所内の勉強会で他の職員に伝える等、学習の機会を設けている。	身体拘束については、全職員で勉強会を継続して行い理解を深め、今後も利用者一人ひとりを大切にしながら日々のケアが行えるよう取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各研修や勉強会の場において学ぶ機会があり、虐待の防止に努めている。また虐待には繋がらないが、職員同士で利用者に対する言葉がけが行き過ぎる場合には、お互いに注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会や各研修の場において学ぶ機会があり、必要に応じて制度を活用していた方もいた。また今後制度に値する方がいれば、関係者と検討し活用も考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時において管理者より十分な説明と同意を得てからのサービス利用を行っている。改定時においても、前もって文書にて説明、同意を求めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月のサービス担当者会議に家族も参加してもらい、意見要望を聴き、出された意見等は十分話し合い、反映されている。また、運営推進会議の場や、面会時において家族からの意見を聞きだせるように努めている。 (外部評価) 利用者には日頃の生活の中で思いや意向を聞いている。また、家族には面会の時や電話連絡をした際に要望や意見を聞くよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会や申し送り時、その他の職員が集まる場において意見、提案を聞く機会があり、それらの意見は話し合い、運営に反映されている。また、管理者に直接意見を申し入れれば、検討してくれており、しかるべき回答をもって報告出来ている。</p> <p>(外部評価) 昨年の8月に管理者が交代しているが、開設当初から勤務している職員が新しい管理者になっており、職員も気軽に意見が言える関係ができています。管理者との個人面談もあり意見の言える機会が設けられている。研修会に参加するための経費は事業所が負担しており、資格取得もしやすいようバックアップしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 全職員に個人年間目標を設置し、その人にあった職務目標を設け、向上心を持てる様に働きかけている。福利厚生も整備され、環境面でも会社としてバックアップ出来ている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 年間の研修計画に添って個々の能力に合った研修に参加している。希望する研修等にも自由に参加でき、勤務時間内に参加出来るように調整している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のグループホームとの相互研修に参加したり、様々な研修を通して情報交換や交流を行っている。他施設の良いところは取り入れサービスの質の向上に活かしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前の面談の段階で、本人と話し合い要望等聴きだせるよう耳を傾けている。聞きだせない場合においても表情や仕草から理解できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談の段階で、家族と詳しく話し合い、要望等聴きだせるようにしており、初期の段階での関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談の段階において、本当にこのサービスが適しているか話し合い、合意納得の上でのサービス利用に努めている。また、他のサービスが適しているのであれば、その都度対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 可能な限り介護する側、される側の関係を取り払い同等の立場として接するように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアの中で、悩んだり戸惑ったりした場合は、家族からの情報を聞き出したり、相談したりしながらお互いに支え合って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族以外の関係の継続は不十分だと感じている。たまにだが、昔の知り合いや友人が面会に来てくれ、楽しい時間を過ごしている。そういった時間がもっと持てる様支援したい。 (外部評価) 以前には利用者の住んでいた地域等にドライブに行った事もあるが、長く入居している利用者は、自分の住んでいた地域より事業所での関わりが馴染みとなってきている。近くから入居している利用者には知人の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い方同士は一緒にテーブルに座り、共に過ごせる様に支援し、中には一緒に入浴したりしている。ユニットが違う方同士でも互いに行きかい同じ時間を過ごされている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後は、頻繁に会う機会はなく関係性の継続は出来ていないが、入院されている方などには、面会に行き挨拶など交わしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望、意向を聴き何を求めているか、把握に努め出来る限り支援しているが、困難な方については、職員のペースになっている場合が多い。 (外部評価) 日頃の会話の中で利用者から直接聞いたり、家族の訪問時に要望等を聞くようにしている。利用者の表情やしぐさ等からも把握するようにしている。新任の職員は先輩の職員に教えてもらいながら記録で確認するように努めている。	利用者一人ひとり入居時の状況とは違ってきており、職員は日々の生活の中で多くの情報を得る事が多いため、申し送り等で伝えるようにしているが、得た情報を確実に共有するための仕組みや記録方法等について工夫するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初期の段階で家族、本人、その他の関係者から情報を得ており、利用後についても何気ない会話の中から情報の収集に努めている。またそれらを情報ツールに記録保存している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしぶりから本人の性格、特徴等把握に努め、アセスメントシートに記録し、ケアに活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月チームスタッフや家族による担当者会議を開催し、介護計画の見直しと検討を行い、率直な意見の答申を図っている。また、状態の変化に伴い都度ミニカンファレンスを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。 (外部評価) 介護計画については、利用者や家族、職員の意見を取り入れながら計画作成担当者が作成している。各ユニット会で話し合いを行い、3か月に1回見直ししている。利用者の状態に変化があればその都度状態に合わせた新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づきノート、オンリーワンメモ等独自のツールを使い情報の共有に努めており、介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 十分ではない。サービスの多機能化に至っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティアによる慰問などの訪問があるが、十分に活用できていないと感じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体の病院と綿密な連携体制を構築できており、急変 時等、迅速に対応出来ている。入居前からのかかりつ け医と継続して医療を受けれるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診がで きるよう支援したり、年1回健康診断を受ける等、健康管 理が十分に行われている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員に適時報告相談し、場合によって受診したり している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院後の経過報告や、職員がお見舞いに行ったりして 情報交換できており、かかりつけ医とも毎週の往診時 において状態の報告を受けている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所の方針として終末期ケアは実施しないが、事業 所として可能な限りのケアは行っている。また、状態 の変化に伴い早い段階より家族と、話し合っ て意向の把握に努め支援している。</p> <p>(外部評価) 看取りを行わない方針としており、入居時に利用者や 家族に説明している。緊急時にはかかりつけ医や協力 医療機関と連携を取りながら適切に対応している。利 用者が重度化した場合や終末期には、その都度か かりつけ医や家族と話し合いを行い、利用者の状態に 応じて病院や施設を利用するようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員対象に消防署において、救命講習を2年毎に受けている。AEDの使用や、応急手当の訓練を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、夜間における火災を想定した避難訓練を実施しており、迅速な避難の仕方を身につけている。ただ、地域の消防団などとの協力体制は整っていない。 (外部評価) 年2回、避難訓練を夜間を想定する等しながら、実施している。避難訓練実施日に運営推進会議を行い、参加者にそれぞれユニットごとに分かれて見学してもらっている。備蓄については3日分確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けには気を配り、どんな場面においても一声かけてから、接している。ただ言葉が足りず気分を害してしまう場合もあり、反省する事もある。 (外部評価) 利用者一人ひとりのプライバシーや人格を尊重し、特に入浴時やトイレ誘導時の声かけ等に配慮している。職員の利用者に対する声かけは穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何気ないかかわりの中で、本人の希望や意向の把握に努めるようにしており、自己決定困難な方においても表情や仕草から何を求めているか、把握できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時には職員の業務優先になってしまい、利用者のペースに合わないケアを行ってしまう場合もあるが、落ち着いてゆっくりと対話し、希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時や行事ごとの際には、本人の好きな服装を職員と一緒に選び勧めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人の状態にあった食事形態にて対応している。嚥下咀嚼困難な方には、ミキサー食にしたり、軟らかくしている。一緒に盛り付けや食器洗いをしている方もいる。 (外部評価) ユニットごとに立てられた献立はカロリー計算がされている。食材の買い出しや下ごしらえ、後片付け等できることを無理のないようしてもらっている。職員と共に食事をしながら楽しいひと時を過ごすことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が減っている方には、カロリー食やトロミをつけたりしてその人の状態にあった物を提供している。1日のトータル水分量を管理表にて把握して支援できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には口腔ケアをしてもらい、上手く出来ない方についても介助にて清潔保持できており、ケアプランにも挙げて支援している方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて定期的に誘導しタイミングよく排泄できるよう支援している。失禁が見られる方においても、安易にリハビリパンツを使用せず、可能な限り自分の力にて排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して支援している。日中はなるべくトイレ誘導を心がけている。夜間は眠剤を服用している人もいるため、一人ひとりの状態に応じて安眠を確保しながらおむつ交換やトイレ誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) センナ茶の飲用をすすめ、可能な限り自然排便できるようにしている。便秘気味の方には、腹部マッサージをしたり、運動をしたりして予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようにしており、仲の良い方同士で入浴される方もいる。どうしても拒否される方には決して無理に入ってもらおうとせず、必ず本人の意向を聴いてから支援している。	
			(外部評価) 午後から入浴することが多いが、希望すれば好きな時に入れるようにしている。入浴の苦手な利用者に対しては、無理強いをしないよう職員が交代して声かけしたり、時間や日を変える等の工夫をして気持ちよく入浴できるよう支援している。清拭や足浴等で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間寝付きの悪い方には、添い寝したり、日中でも臥床を希望される方には居室にて休んでいただいている。睡眠時間も皆一律に同じではなく、その人の生活ペースに合わせ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬について、説明書をファイリングしている。また服薬時においては、飲み忘れ、誤薬がないよう時間、氏名を確かめて支援している。服薬前、後は必ず3度の確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来ること、望まれることの把握に努め、張り合いが持てるように支援し、出来た時に喜びがもてるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候の良い季節は、出来るだけ月に一度は外出計画に添って出かけているが、日常的な支援には至っていない。家族と毎月御主人の墓参りに行かれている方はいるが、ごく一部の方に限られている。 (外部評価) 年間の行事計画で花見等を企画したり、ユニットごとで買い物やドライブ、外食を実施する等、外出支援に努めている。また、家族と外出する利用者もいる。敷地内は広く、天気の良い日は事業所の周囲を散歩することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理できる方は、自分で管理しておりパンを購入したり、外出時に好きなお菓子を購入しているが、大方の人はレベル的に金銭管理ができない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りは出来ていないが、家族に電話を要求される方は、頻繁に電話している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングや、共有の場所（ホール、ベランダ、中庭）には、季節の野菜や花々を植えている。空気清浄加湿器を配置し、適度な湿度と空気の管理に努め、毎朝窓を開け新鮮な外気の入替えを心がけている。	
			(外部評価) 明るい居間にはソファが置かれ、畳のスペースにはこたつがあり、利用者の好きな場所で寛ぐことができるようになっている。壁には季節を感じさせる飾り付けがされ、家庭的な雰囲気づくりがされている。温度や湿度が管理されている。台所から全体が見渡せ、常に利用者を見守ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りを望まれる方は自由に居室にて過ごしてもらっている。また、仲の良い人同士で一緒にテーブル席にて座ってもらい同じ時間を共有できる様に配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や、お孫さんからの手紙やプレゼントを飾り、また使い慣れたタンスや、椅子を持ち込み快適に過ごせるよう、配慮している。	
			(外部評価) 収納スペースが確保されており、部屋全体がすっきりしている。利用者はそれぞれ家庭より使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでおり、写真等を気に入った場所に置いたり壁に飾ったりして落ち着いて過ごせるような居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の居室には写真付きの色紙を掛け、混乱が生じないよう工夫しており、廊下、トイレ、浴室等共有空間には、手すりを配備し快適安全に過ごせるようにしている。	